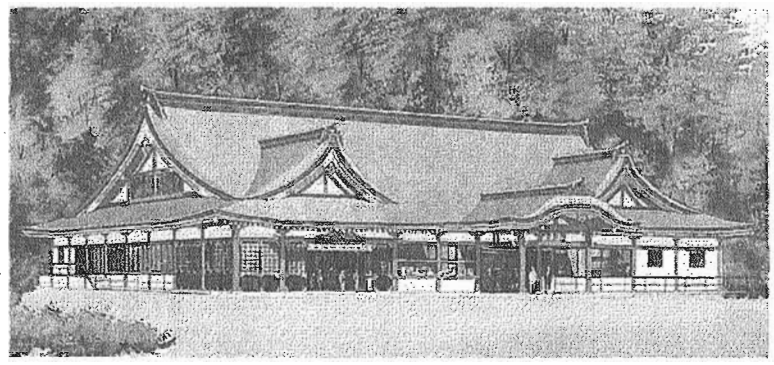
戸田建設で施工

霧島神宮神楽殿改築地鎮祭

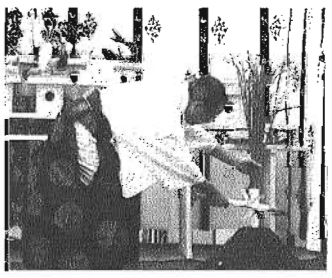
霧島神宮神楽殿改築工事地鎮祭が1日、姶良郡霧島町の現地で開かれ、関係者約100人が出席して、無事故無災害での竣工を祈願した。

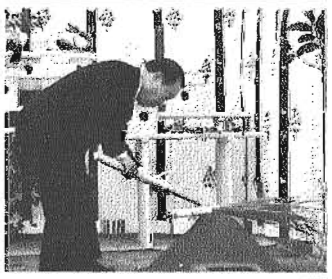


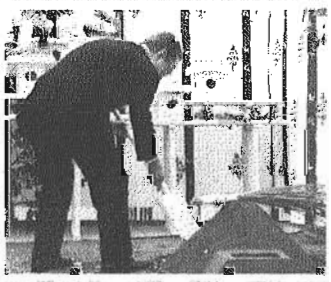
神楽殿改築の完成予想パース

地鎮祭では、刈り初めの儀を高橋弘平霧島神宮宮司が、穿ち初めの儀の鍬入れを野村稔神楽殿改築事業委員長が、鋤入れを大西洋逸同奉賛会長が、鎮物埋納を祭主が、鎮物覆の儀を上條保夫戸田建設㈱九州支店次長がそれぞれ執り行い、続いて高橋宮宮司、野村委員長、大西会長、折田辰美責任役員、川村昭二日本建築工藝設計事務所長、上條次長、西川貴一朗氏子総代、顧問の小里貞利衆議、相談役の鶴丸明人国分市長らが次々と玉串を捧げて、工事の安全を祈った。

出席者全員の記念撮影の後、会場を移して開かれた直会では、高橋宮司が「天孫降臨の地に建つ霧島神宮は、御鎮座以来1460年の歴史を有している。平成12年に神楽殿の改築を計画し、昨年の大きな事業。無事成工を確信しています」と乾杯の発声を行い、祝宴となった。







刈り初めを行う高橋宮司、鍬入れを行う野村委員長、鋤入れを行う大西会長、鎮物埋納を行う祭主、鎮物覆の儀を行う上條次長（上から）＝霧島町の現地で

現在の霧島神宮神楽殿は、昭和48年、官幣大社列格百年記念事業で本殿大修理を行なった際に仮御殿として建築された。本来の建築様式とは異なることと老朽化のため、改築が計画された。

新しい神楽殿は、S造平屋建て990平方㍍、そのうち神饌所等を含む内部木造仕上げの祈祷殿が330平方㍍、儀式殿、参拝者控室、会議室等を含む参集殿が660平方㍍、自家水道改修工事が水源地から神宮まで約4000㍍の計画。

事業予算は、神楽殿造営費が3億9000万円、諸設備費が1億5000万円、水道改修工事費が4000万円、諸費が5000万円の合計6億3000万円。このうち神宮自己資金が3億円、崇敬者募金が3億3000万円となっている。

設計は日本建築工藝設計事務所、施工は戸田建設で造り上げてくださるようお願いしたい」と挨拶。続いて小里衆議が「世紀の大仕事が滞りなく進むことを願う。町民の1人として関係者の努力に感謝するとともに、広く社会に喜ばれる事業であることを確信している」と祝辞を寄せた。

また野村委員長と大西会長も「来年の今ごろ竣工式を予定しているが、卓越した技術を結集し、円滑に事業推進されることを願っている」とそれぞれ乾杯の発声を行い、祝宴となった。

現在の霧島神宮神楽殿は、昭和48年、官幣大社列格百年記念事業で本殿大修理を行なった際に仮御殿として建築された。本来の建築様式とは異なることと老朽化のため、改築が計画された。

新しい神楽殿は、S造平屋建て990平方㍍、そのうち神饌所等を含む内部木造仕上げの祈祷殿が330平方㍍、儀式殿、参拝者控室、会議室等を含む参集殿が660平方㍍、自家水道改修工事が水源地から神宮まで約4000㍍の計画。

事業予算は、神楽殿造営費が3億9000万円、諸設備費が1億5000万円、水道改修工事費が4000万円、諸費が5000万円の合計6億3000万円。このうち神宮自己資金が3億円、崇敬者募金が3億3000万円となっている。

設計は日本建築工藝設計事務所、施工は戸田建

インタビュー席

菱刈町長 神園 勝喜氏（上）

――就任されて半年が過ぎましたが、今後の抱負をお聞かせください

まず何事も1人ではなく、130人の職員全員でやるということ。1人のアイデアではいいものは生まれない。斬新な発想でいろいろと取り組んでほしい。

町長に就任した際、職員と同じ目線で仕事をしようと町長室と助役室を廃止した。現在は会議室として使っている。町民にも話しやすくなったと喜んでもらっているようだ。

菱刈町は農業農村の町。食料生産基地として、安全安心な食べ物を生産する町にしたい。県内外の外食産業への売り込みを図っており、すでに契約を交わした企業も数社ある。かなりの量の販路が拡大できる見込みで、町民所得の向上にもつながる。

先日、東京の有名店新・鹿児島ラーメン「鹿まる」のオーナーらメンバー数人が町を訪問された。鹿児島の食材を丸ごと使うことをコンセプトにしている店で、町の特産品である金山ねぎや伊佐米を使ってもらっている店。職員と「いの・しか・ちょう」で迎える作戦を立てた。猪肉、鹿肉、地鳥で「いのしかちょう」としゃれた。伊佐米のおにぎりも用意し、大変喜んでいただけたと思う。

川の駅計画

ドラゴンレース 合宿所、艇庫整備等

昨年は四季倶楽部を整備したが、他の特産品販売所もさらに充実させることで、販売戦略を立てていきたい。

また町民には菱刈町の素晴らしさを再認識していただきたい。昨年末、日本でただ1カ所、金鉱床調査費に7000万円、国の補正予算がついた。16年度に3カ所のボーリング調査が始まる。確認されればさらに金の町として活性化にはずみがつくと確信している。

永田行博鹿児島大学長や住吉昭信宮崎大学長、養老孟司のベストセラー「バカの壁」を出版した新潮社の三重博一編集長、俳優の榎木孝明など、町出身の著名人も数多い。今年は新町制50周年を迎える。7月には県内で1カ所、農村公園でラジオ体操の生放送も行われ、町民3000人が参加して花を添える。

――菱刈町の今後の事業計画は

まずは川内川。昔から町民に親しまれて利用され、また災害には悩まされてきたが、昨年整備されたので懸案の「川の駅」計画を具体的に進めていきたい。

一つは湯之尾滝周辺をカヌードラゴンレース用に整備したい。

九州カヌー連盟から、同地は九州で1番ドラゴンレース場に適していると評価を受けた。稼動堰により1年中水面の高さが変らず、河川敷の高さが水面や観客の視線と同じであり利用しやすいことなどが評価された。具体的には発着所や200人収容可能の合宿所、艇庫の整備などを考えている。

また完成すれば県内初となるであろう「川の水族館」も実現したい。川の生物を収容展示し、保育園など児童の学習の場として利用してもらいたい。

以上が「川の駅計画」だが、町独自の計画図面を作成したところ総事業費は10億円くらいになる見込みだ。今後、国及び県に積極的に陳情していきたい。

あのひと この人

徳田 実さん

――仕事上心掛けていること。

現場では安全第一に、スムーズかつ楽しく仕事ができるよう心掛けています。また他社の現場の良いところは自分なりに取り入れるようにしています。

――近況を。

双子の息子達の七草祝いに、よくぞここまで無事育ってくれたと感激しました。親としてほっとした心遣いは貴重だ。

――趣味は。

バンドで、担当はベース。今月は鹿児島市で、鹿大フォークソング同好会OBライブをやる予定です。

（大口市）

地域版 姶良・伊佐

姶良支局 姶良郡加治木町 ☎0995-63-

通信 加治木 国分 大口 栗野

ニュース、企業・催し物、工事・企業・団体・支局へご連絡ください。

城の坂

今年の冬は例年にも増して寒さが厳しい。昨年末、栗野町の取材で、気温マイナス.5度を体験した。寒さは痛いものだったと思い出したが、この程度で震えていては、現地の方々に笑われるかもしれない▼この時期活躍するのが使い捨てカイロ。鉄が酸化作用で発熱することを利用したもので、1978年に新発売されると同時に爆発的なベストセラーとなったが、実はその歴史はさらに古く、1950年に始まった朝鮮戦争では、米軍が食塩と鉄粉を容器に入れて、暖をとったそうだ▼さて、姶良郡隼人町にある太陽建機レンタル㈱国分支店。現在は同町の区画整理事業に伴い、仮店舗で営業中だが、3月にはリニューアルオープンする予定。先日訪問したとき、カウンターの上に使い捨てカイロが山積みになっていた。顧客サービスの一環として、来客に数個ずつ差し上げているとのこと。現場監督が現場作業員の人数だけ、と笑顔でもらっていく。同社では約90店舗の全ての営業所で2、3年前から実施しているという。今の時代、こういうちょっとした心遣いは貴重だ。